

令和7年度 第4回 静岡県作業療法士会理事会 議事録

1. 開催日時 令和 7年 10月 11日 午後 1時00分～ 5時 19分
2. 開催場所 公益社団法人 静岡県作業療法士会事務局（静岡市葵区昭和町9-5 第二大石ビル8F）
3. 出席者
 - 理事総数 15名
 - 出席理事 14名
 - 代表理事：岡庭隆門（議長）
 - 理事：村岡健史 川口恭子 中村毎途 武内元 秋山尚也 生田純一 大石裕也
 - 藤田さより 伊井玄 大塚昭宏 建木健 稲葉洋介 齊藤洋平
 - 監事：勝又和也
 - 欠席：加納彰 秋山恭延 梶原幸信

会長挨拶

事務局員、家計業務についてご尽力いただきました。現状は順調に運んでおります。

4. 決議事項
 - ①第1号議案 次年度事業指針
 - 1) 会員に向けた研修会・学会等は、分野横断的・重層的な視点での開催の促進と共に、
ライフイベントや勤務形態の多様化に対応した 短時間近隣・オンラインや動画配信による研修へ
の検討と具現化の促進。
 - 2) 県民に向けた普及啓発事業・行政委託事業の推進。
 - 3) 新教育システムへの対応と新人教育体制の整備
 - 4) 組織率維持に向けて、会員メリット（福利厚生・様々な方式での還元など）の検討。
 - 5) 会員相互の密接な繋がりと組織化と成熟を目指す。
 - 6) 協会=県士会の実施に向けた会員管理・事務詳細について課題整理し対応。
 - 7) 法人管理事業及び財務・会計事業及び事業収支バランスについて、機能強化、可視化、
合理化を進める。前回資料参照
 - ②第2号議案 39回静岡県作業療法学会決議事項
 - ③第3号議案 その他（三役・各部局・事務局からの決議事項）
※ペーパーレス・コンテンツ整備・その他
5. 報告事項

報告第1号 第39回静岡県作業療法学会進捗報告

報告第2号 各部・WG報告（職務執行状況・修正対応の報告）資料提出あり

報告第3号 その他

6. 開会

事務局が定数を満たしていることを報告し、議長は本会が成立していることを宣言した。

7. 議事の経過要領及びその結果（決議事項）

第1号議案 次年度事業指針 基本的な指針→承認

- 1) 会員に向けた研修会・学会等は、分野横断的・重層的な視点での開催の促進と共に、ライフィベントや勤務形態の多様化に対応した 短時間近隣・オンラインや動画配信による研修への検討と具現化の促進。
- 2) 県民に向けた普及啓発事業・行政委託事業の推進。
- 3) 新教育システムへの対応と新人教育体制の整備
- 4) 組織率維持に向けて、会員メリット（福利厚生・様々な方式での還元など）の検討。
- 5) 会員相互の密接な繋がりと組織化と成熟を目指す。
- 6) 協会=県士会の実施に向けた会員管理・事務詳細について課題整理し対応。
- 7) 法人管理事業及び財務・会計事業及び事業収支バランスについて、機能強化、可視化、合理化を進める。前回資料参照

第2号議案 39回静岡県作業療法学会決議事項

参加費について→承認

委員の謝金 5000円→承認

委員謝金と当日謝金の支給をしていく→承認

講師料について→承認

会場費の支払いについて→承認

（議事内容）

齊藤：・学会概要についてについて

資料提示により概要の説明を実施

期日：令和8年 学会テーマ：“つなぐ～共に築く支援のかたち～”学
会誌の電子化を進めている。会場：プラサヴェルテ 参加：300名予定

・学会参加費について

会員 3000円、非会員 6000円 多職種 4000円、学生 1000円

岡庭：非会員と多職種は同じ額とする。会員の1.5倍の設定をしてみると以下。学術部に
おいては、他職種の

齊藤：非会員の参加費の設定には特に根拠はない。

岡庭：会費を払っているかどうかでの区分けをしてみてもいいのではないか。

勝又：学会での公開講座、差を作る場合には会員を囲っていると取られてしまう。

岡庭：会員と非会員の

生田：会員の心情もあるので、差を設けるのは必要。差が著しいものでは無いようにした方が良い。一般の方への配慮を行っていくことが必要。非会員と一般の方を差をつけないことがイイのでは無いか。

武内：平成 29 年の監査の指摘で上がったことであり、1.5 倍程度とした経緯がある。

建木：リセットをした方がいいのでは。参加費を同じとして、抄録など物品について差をつけるなどしてみてはどうか。

大石：参加費は一緒にして、会員は割引にする。

岡庭：非会員と他職種は同額、会員の 1.5 倍とする

参加費について→承認

・委員の謝金について

委員の謝金について 5000 円から 4000 円とする。

学会参加費の 3000 円、当日謝金 1000 円での 4000 円としたい。

大石：部局の謝金は 5000 円、学会の場合は 1 年以上の動きで見るのか、当日のみになるか。

川口：1 年以上の準備期間がある。そのため部員と同等と捉えてもイイのでは。

岡庭：謝金の設定根拠について確認したい。

齊藤：学会の規模が小さくなっているので、今までの開催期間の学会と同額をもらうのはどうか

岡庭：謝金の金額を階層化していくことが背景としてあるか。

武内：二日開催では人数は多くなるが、1 日開催でも業務量は変わらないと思う。

川口：36 回学会から日当が出ているが、その都度違いがあるので、整理が必要。

生田：各部での時間的拘束時間があるにしても、規模はおいておいて、業務量を見ていくと、同額で良いのでは。それより学会参加費の免除が問題ではないか。

委員の謝金 5000 円→承認

岡庭：5000 円の謝金をもらうならば 1000 円の日当を含めてもらう

ということになってはいない。

川口：学術部などでは、部員は年間 5000 円、当日の運営 1000 円を支給する。

岡庭：委員と当日の運営が同じ人のため 5000 円と当日の 1000 円を支給することに統一していく。

大塚：学会マニュアルにおいては、準備に関わった方は 5000 円、当日運営は 1000 円支払った。1 年間の方は当日謝金は無しであった。が次年度より実行委員にも当日謝金 1000 円を支給する

藤田：学会参加費を支払った上で、準備は 5000 円、当日運営は 1000 円の支払いを行っていく。

委員謝金と当日謝金の支給をしていく→承認

・公開講座の謝金について

120000 円（講師料、交通費、ヘルパー依頼）

大石：86 歳の方。健康状態は大丈夫でしょうか

齊藤：現状元気でいられる。

講師料について→承認

・会場費の支払いについて

242250 円を 10 月中に支払う。

会場費の支払いについて→承認

第 3 号議案 その他（三役・各部局・事務局からの決議事項）

※ペパーレス・コンテンツ整備・その他

広報誌ペーパーレス化について→承認

広報誌の設定やパスワードの設定について→保留（継続審議）

オンデマンドコンテンツについて→保留（継続審議）

研修会費の設定を非会員と多職種は同額、会員の 1.5 倍とする→承認

刑務所の見学については補正予算、企画書の提出をしていただく→承認

学生会員は無料→承認

施設代表者会議の開催について→承認

災害対策初動についての発信の基準について→承認

新規会員 9 名→承認

事務局の防犯対策（カメラの設置）→承認

東海北陸学会での会長のシンポジウムへの参加→承認

（議事内容）

※ペパーレス・コンテンツ整備・その他

ペーパーレスについて

大石：広報部内での検討が進んでいる。会報誌は11月から電子化と紙媒体を併用していく。次年度途中から完全移行を行う予定。

会員向けの情報でパスワード設定はできる。個別、共通ともに設定できる。11月の広報誌に共有パスワードを載せてアクセス数を確認していく。LINEでも発信をしてアクセス数を確認していく

学会誌の電子化については、一般と会員の両方のサーバーを作っている。容量は大きいものであるので、学会誌用のHPの設定とリンクはできる。永続的な運用を考えるとどこで負荷がかかるかはわからない。

生田：ISSNの取得には専用のHPが必要である。Jステージでは間に合わない。規定も細かく対応が難しい。対応のスピードを考えると広報部への依頼が良いのでは。アクセスはオープンアクセスとなると考えるので、誰でも見れるようになると良いのでは。

岡庭：広報誌においてレスの型を作ってもらう。次に学会誌の電子化についてはいかがか。

大石：学会誌は積み重なっていく形で良いのか。

生田：アクセスが過去のものでもできるようにしておく必要性がある。

岡庭：保存量は増加し続けていくことになる。

大石：HPの構築に際し業者のサポートを受けるための補正予算を立てていきたい。

生田：全国的に見ても10に満たない。質的にオープンになるほどではない。会員のメリットとしてHPに設定することが良いのではないか。

オンラインジャーナルにおいてHPに専用の保存場所を作っていく。業者のサポートを受けるための補正予算を。中長期的な対応が必要であるか。

広報誌ペーパーレス化について→承認

岡庭：広報誌の設定をパスワードで管理することについてどうか。

村岡：外部に送っていたところは遮断していくのか。楽しみにしている業者もあるがその対応はどうか。

大石：紙媒体は少なくすると金額が高くなるので、希望があるところにはメール配信をしても良いのでは。

生田：デジタルとアナログの2極化しているが、声も大きくどう対応していくのか。地域のネットワークに立ち戻り県士会の立ち位置を考えても良いのでは。

岡庭：DX化に向けてデジタル技術への情報を行っていっても良いのでは。

建木：外向きのものはペーパーで送った方が残りやすいし、目に入りやすいので残していくことができるので良いのでは。郵送費が気になるところ。

齊藤：デジタル化に賛成だが、学会誌についても後援先、講師の方への発送を考える必要性があるか。デジタルのお知らせをするのか、若干数の印刷での対応がいいか。

岡庭：対外的なものに対して紙媒体がいいかどうか。

大石：外部に送るのは80程度ある。デザインを作るための作業代変わらない。版画を使用

する数において単価が変わる。作るならば、手作業にして、事務局で印刷発送を行う。もしくは、メール配信型にする方法もある。

岡庭：意見だし、懸念出しである。学会誌は整理していく。広報誌においてもレスをベースとする。対外的なところで、ペーパーが効果的であることが見込めるところは検討の余地がある。

会員向けの対応が必要であり、県士会のコアな機能を再検討することも必要である。
大石：レスへのアンケートは行ったが、回答数が少ない。そのため、再度会報誌でのアンケートを行う必要性はあるか。

村岡：紙面の経費を載せて、様子を聞いてみる。

生田：アンケートはやっての良いが、情報を取りにいく気力がない方もいる。強制的にも送り届けてもいいか。経費掲載は逆効果ではないか。施設にペーパーを送って回覧する。

全会員に届くようにデジタルでどうのように行うかの検討が良いのでは。

岡庭：継続議題にしていきたい。

広報誌の設定やパスワードの設定について→保留(継続審議)

収益方法について

岡庭：オンデマンドについて

今までの研修会のコンテンツの提供をすることについて

生田：オンデマンドが乱立している。見てほしいが、どれだけみるのか。教会の登録 OT の動画の数もすごい。若い方が望まれているものであるか。若い人は短ければ、子育て世代で忙しい。

秋山：育児から退会者が多いので、オンデマンドは有効化。30 分程度のものがイイのではないか。SIG のものでも見逃し配信があればイイのかな。

中村：オンデマンド、対面ではなく何を知りたいのかが大切では。内容によってみんな見るのではないか。テーマの比較、ヒアリングをするのがイイのではないか。見てもらうものを用意することが必要ではないか。

岡庭：県士会として発信するもので何を求められているのかを考えていくことが必要であるか。今までの見逃し配信などどのくらい見ているか。

大塚：前々回の中部はオンデマンドについて。思ったより見ていない。印象。

秋山：38回学会では、見た人は見ているといった感覚。すごく多かったことはない。

齊藤：リーダー研修会で、県士会員が HP を見てキーワード検索にて関連書籍や有名な方の動画の紹介などがあると嬉しいという意見があった。

岡庭：勉強になるコンテンツ提供は企業にかなうわけが無い。県士会として何ができるのか。

中村：会員個人の働きかけの議論であるが、施設単位でのアプローチも同時に議論が必要であるではないか。

岡庭：代表者会議が施設単位のアプローチとして設定をした。今まででは誰かに会うためになど理由があった。

ニーズの確認が必要であり、動画の有効活用ができるように検討を重ねていく。もう一度県士会の役割を考え、何を発信をしていくのかが必要か。

オンデマンドコンテンツについて→保留（継続審議）

学術部

研修会費の設定について

生田：他職種の参加を促したいところで参加費の設定を検討していきたい。

研修会費の設定を非会員と多職種は同額、会員の1.5倍とする→承認

司法 WG

刑務所の見学について

生田：学生に向けた取り組みとして実施できれば。公的な施設との関係では法人を通しての関わりがイイのでは。

岡庭：司法 WG の部員が1名であり、運営では手伝いが必要である。学生は学生会員としての登録はされている。

建木：学生向けはイイのでは。補正予算は何についてか。

生田：小池さんの交通費が計上されている。学生は現地集合、解散である。

岡庭：企画書が届いていないがあるか。

生田：学生については無料で良いか。

刑務所の見学については補正予算、企画書の提出をしていただく→承認

学生会員は無料→承認

広報部

大石：地域事業部からの依頼で、啓発用のパネル作成に使用するための写真の募集をしていく。同意書と撤回書の使用を許可いただきたい

生田：依頼があったが、ハードルが高い。

大石：許可がもらえない場合は、生成画像を使用する予定ではある。

秋山：病院パンフレットの写真を提供してもらえる可能性はあるのでは。

大石：コパイロットの写真は商業用にも使用できる

調査部

中村：班の統合に関しての継続審議において再度審議を依頼。

支援室の業務は創造塾に業務を委託している。

伊井：部員の名簿を統合していくことになると理解でいいか。

中村：承認されれば調査部での統合という形でいいと考える。

岡庭：今まで推進室では活動実態がなかったので、今回の統合に関して実務にあ

った活動ができるのでは無いか。

→調査部への推進室の統合が承認され、組織図の変更が承認された。

中村：施設代表者会議について

例年は参加者への1000円の支給があったが、今回から日当の支給はなし。

GWを中心に行なっていく形に整えた。

岡庭：プラットホームとしての横のつながりを作るたるものにもなる。能動的に参加を行なっていただくことがイイのでは無いか。

稻葉：地区代表者の連絡網、メール網を整備することをしていただきたい。つながりを作るためのツールを作れないか。

中村：地区担当の

大石：新しく作るより、協会のネットワークを利用する方法がイイのではないか。

岡庭：広域への情報の配信を意識して、活用することを考えてもいいか。

藤田：内容について、各県土会で倫理委員会の研修会を行うことが求められているので、施設代表者会議での抱き合わせ開催を組み込んでいただきたい。

岡庭：会長の話の中で倫理問題の話を含めていくこともできるのではないか。

武内：協会の連絡網の使用に関する問い合わせを行います。

施設代表者会議の開催について→承認

講師料については辞退があった。

災害対策委員会

村岡：地区連絡網の利用は難しく、協会の連絡網の利用を確認いただきました。

局地的な災害の発災においてタイムラグが発生する。災害の際の初動に關して、自動的に展開できるような基準値を用意をしておいた方がイイのでは無いか。POSの動きがバラバラに動いているので、統一した動きをしていきたい。

協会のメール網の利用について→承認・・要望として実現してもらうように

岡庭：初動対応のための基準は設けられている。安否確認において自動的に立ち上げてもいいのではないか。

災害対策初動についての発信の基準について→承認

事務局

武内：派遣：推薦

委員推薦・派遣依頼・後援名義・その他依頼について

1) 第84回日本公衆衛生学会総会開催のご案内とご協力のお願い：川口副会長→承認

2) 令和7年度地域保健総合推進事業 研修会日程について(10/19(日))：加納理事出席→承認

3) 「国民医療を守るための総決起集会」の開催について 11/20 (木) 14:00→稲葉・川口調整後→承認

4) 令和7年度障害を理由とする差別解消推進県民会議の開催(県障害者政策課 10/30(木):岡庭会長→承認

5) 厚生協議会 (10/30: 村岡副会長、稲葉理事) →承認

6) 協会員=士会員の実現に向けて委員候補者推薦 (OT 協会) →承認

7) 令和8・9・10年度 富士市介護認定審査会委員の推薦 (4名) →承認
市村紋子氏 (継続)、佐藤瑞穂氏 (継続)、望月正貴氏 (新規)、松尾祐介氏 (新規)

8) 一般社団法人日本精神科看護協会/後援名義使用及び式典の出席依頼
「第51回日本精神科看護学術集会」令和8年6月26日(金)開催 岡庭会長に出席依頼予定→承認

9) 浜松児童福祉会 はぐくみの家/講師依頼: 小笠原誠氏→承認
新規会員

9名→承認

事務局の防犯対策について

岡庭: 人気の少ないビルでの女性の事務局員の業務になるため防犯対策を行なっていきたい。

武内: 拡張性を考えてインターホンと監視カメラの購入をしていきたい。

建木: スイッチボット使用には携帯での設定が必要ではないか。

村岡: 基本的にはドアホン、モニターカメラにおいては独立しているので事務局員に使用してもらう。

建木: 置き型のカメラの紐付けが個人携帯になるので、いつでも見られるのでセキュリティー上は大丈夫か。

村岡: 基本的には事務局長付になると考える。

岡庭: 労務士にも相談しながら購入は行なっていく。運用については社労士・弁護士に相談の上、適切な運用を相談の上運用していく。

事務局の防犯対策 (カメラの設置) →承認

1月10・11日東海北陸学会

各県士会の取り組みのシンポジウムを行いたいとのこと。

東海北陸学会での会長のシンポジウムへの参加→承認

表彰委員会

功労賞に該当者はないし。→

岡庭: 牧之原にJRATは動いていない。

秋山：建木さんが新聞に載っていたが

武内：優秀学生賞の推薦者の用紙を送らせていただきますので、推薦をお願いします。

予算審議委員会

岡庭：次回の理事会までに予算案、事業案の概要の策定をお願いします。

8. 報告事項

報告第1号 第39回静岡県作業療法学会進捗報告

報告第2号 各部・WG報告（職務執行状況・修正対応の報告）資料提出あり

学術部

研修会の収支の報告を追加で行なっている。

研修会の実施方法の検討を行なっている。

岡庭：プロジェクトの購入に関しては必要性が高まっているので、備品としての購入を検討していく。

財務部

通帳の名前の変更を行なっていく。

タクシタへの委託について業務の変更については分かり次第連絡を行なっていく。

教育部

研修への参加者が駆け込み需要として予想を上回る状況となっている。

11月研修会、12月事例検討会

臨床実習は参加者は少ない。

MTDLP

予定人数が減った場合にファシリテーターの人数を減少させて実施している。

広報部

研修会掲載の窓口を1本かします。会員HPに11月から掲載依頼フォームを設置予定。

岡庭：月の更新においては30件ほど来ている。

福利部

東海北陸のリーダー研修について、人選をお願いします。

地域事業部

メディメッセージについてメンバーの報告が15日迫っている。もう少し人

手が必要である。

調査部

①調査班 会議

②第 28 回 SIG 創造塾 学術集会（生活行為工夫情報 説明会含む）

日時：2025 年 9 月 23 日（火・祝）13:30～16:00 12 名参加

制度対策部

令和 7 年度 第 1 回（12/17）・第 2 回（1 月予定）制度対策部研修会を開催
災害対策委員会

小川さん協会の BCP 作成委員として参加されている。12 月、説明を受けて
事業仕分けを検討する場を設けたい。

地域包括ケアシステム委員会

- ・地域リハ推進リーダー研修会（基礎編）参加者：43 名（10 月 8 日現在）
- ・地域リハ推進リーダー研修会（応用編）参加者：現在募集中
- ・実践者研修 令和 8 年 1 月 17 日予定

法人管理委員会

積み残し課題の確認

今年度から定期提出書類の変更をされている。今後新基準に適合していく
必要性がある。

訪問リハビリテーション

静岡県リハビリテーション専門職団体協議会訪問リハビリテーション委員
会

人材育成研修会 テーマ：アセスメント再考 講師選定中

事務局

社労士との業務委託契約を行なった。

事務局員の雇用・引き継ぎ中

理事会の承認を得ない取引の確認

総務部

- ・部員名簿について一部確認依頼。
- ・委嘱状について、作業が遅延している。
- ・公文書について

まずは学会のものからフォームでの作成を進めています。それ以外の
研修会講師

派遣などに関しては今まで通りの方法で、各部局での作成をお願いしま
す。

倫理委員会

- ・2025 年度第 1 回 士会・協会倫理連携担当者情報交換会 2025 年 9 月

20日（土）

- ・今後について 県土会の取り組みとして 準備中
 - 相談窓口の HP へのバナーの開設・google フォームの設定
 - 倫理案件のフローチャートの確定（案1 参照）
 - 倫理問題に関する声明文の公表
 - 倫理に関する研修会の実施（年1回 代表者会議等で）
- ・倫理案件の対応について メールにて問い合わせ 2件（同一の方）現在 対応検討中

39回学会

ロゴマークの決定

三団体

地域包括ケア西部にて研修を実施

ACP 他職種連携研修会に参加した。

連盟

- ・厚生問題対策連絡協議会 自由民主党静岡県連合会 2025年10月30

日（木）

・竹内良訓 第118代静岡県議会議長就任を祝う会 2025年9月25日（木）

・静岡県PT連盟定例会参加

・静岡県作業療法士連盟会議

高次脳機能障害研修

130名の応募、102名の受講者を決定・通知。

報告第3号 その他

9. 議長は以上をもって議事は終了した旨を述べ、午後5時 19分、閉会を宣言した。

以上の決議を証するために、この議事録を作成し、議事録署名人が署名・押印をする。

議事録作成者 伊井 玄

議事録署名人

| | |
|---------|---|
| ・岡庭 隆門 | 印 |
| ・村岡 健史 | 印 |
| ・川口 恭子 | 印 |
| ・武内 元 | 印 |
| ・岡本 博行 | 印 |
| ・伊井 玄 | 印 |
| ・秋山 尚也 | 印 |
| ・生田 純一 | 印 |
| ・稻葉 洋介 | 印 |
| ・大石 裕也 | 印 |
| ・大塚 昭宏 | 印 |
| ・加納 彰 | 印 |
| ・齊藤 洋平 | 印 |
| ・建木 健 | 印 |
| ・藤田 さより | 印 |